

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第3回委員会 論点整理	変更事項
全体について	<p>将来像実現の役割を誰が担うのかを明確にすべき</p> <p>地域特性などを踏まえた社会資本整備のあり方を検討すべき</p> <p>効率性などを踏まえた社会資本整備のあり方を検討すべき</p>	<p>資料2 - 1及び2 - 2:6頁</p> <p>これらから、釧路・根室地域の目指す将来像として、以下の5つの方針のもと、地域特性や効率性などを踏まえて、自然環境と両立した持続可能な地域・産業を構築し、「環境と共生し、住みたくなるまちづくり」を実現する。</p>
安心・安全で質の高い食産業の構築	<p>第1次産業を基盤とした食料生産地として具体的戦略を明示すべき</p> <p>建設業などの人員・ノウハウ等を活用し、他業種との連携を進めるべき</p>	<p>資料2 - 1及び2 - 2:7頁</p> <p>食産業の土台となる第1次産業の持続的な発展が重要であるが、「担い手不足」が第1次産業にとって深刻な問題となっている。「担い手不足」に対応するため、関係機関などとの連携を強化しつつ、建設業など他産業や他地域などからの新たな担い手の取り込みのほか、各種ノウハウの吸収や法人化などによる経営の効率化を図り、持続可能な産業構造を目指す。</p>
担い手不足に対応した農業・水産業の効率的な産業構造の構築		
自然環境と調和した持続可能な産業構造の構築		
豊かな自然環境を享受した安全・安心な「食」の生産		
食の高付加価値化・ブランド化の推進		
輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実		
自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興	<p>環境との調和や産業活動との連携した観光メニューの提供</p> <p>安全・安心な食をはじめとした他産業との連携</p> <p>国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供</p> <p>広域的連携による観光産業の振興</p>	<p>資料2 - 1及び2 - 2:9頁</p> <p>恵まれた自然環境を観光資源として活用していく上で、その利用と環境負荷がトレードオフのような関係にあることなど環境の保護と利用に最大限配慮し、NPOや他産業などとの連携を取りながら自然環境と観光産業の共生を図る。</p> <p>資料2 - 1及び2 - 2:10頁</p> <p>エコツアーなどの個人観光を振興するため多様な情報媒体を通じた観光情報の提供、PRを積極的に推進する。</p> <p>資料2 - 1及び2 - 2:11頁</p> <p>滞在型観光を促進するため、道外あるいは東アジア地域を中心にした海外などの気候や文化などの違いを整理し、セールスポイントを明確にする。</p>

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第3回委員会 論点整理	変更事項
<p>住みたくなる地域・生活環境の充実</p>		
<p>雇用機会の創出</p>	<p>雇用機会やビジネスチャンスなどへの「動機付け」が重要</p>	<p>資料2 - 1及び2 - 2:12頁 ・高付加価値化や観光との連携、ブランド化などを推進し、基幹産業である農業や水産業などの持続的な発展を通じ、地域での安定した雇用の機会を創出する。</p>
<p>利便性を確保するためのアクセス機能の向上</p>		
<p>豊かな自然を享受できる地域づくり</p>		
<p>地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり</p>		
<p>北方領土との交流など国際交流の促進</p>		
<p>東アジアなどとの関係の強化</p>		
<p>海外などの需要に応えられる生産・輸送システムの構築</p>		
<p>民間レベルにおけるビジネス交流の促進</p>		
<p>観光などの交流強化と地域ホスピタリティの醸成</p>	<p>海外に対する滞在型観光としての位置付けを確立、強化すべき</p>	<p>資料2 - 1及び2 - 2:15頁 ・東アジア地域などからの滞在観光を促進するため、気候や文化などの違いを明確にし、セールスポイントを積極的に情報発信する。（一部再掲）</p>

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第3回委員会 論点整理	変更事項
地域を支える基盤づくり		
他地域との役割分担と広域連携の推進	<p>釧路を中心とした「役割分担」と「連携」の構築が必要 産業だけでなく、高齢者など生活者の視点が重要 地域でどのように機能を分担するのかを明確にすべき</p>	<p>資料2-1及び2-2:16頁(基本的な考え方) 人口減少下において、釧路・根室地域が目指す将来像を実現するため、釧路などの都市圏と周辺地域や札幌圏など他地域との機能や役割分担を明確にするなど、地域全体としての効率性・利便性の向上を念頭に置き「集中と選択」といった視点から地域構造を見直す必要がある。この地域構造の見直しを通じ、広域連携や人材育成、交通基盤整備など、地域を支える各種基盤の強化を図る。</p>
大学などの機能の活用と地域を支える人材の育成	<p>新たな取り組みの「担い手」を育成することが重要</p>	<p>資料2-1及び2-2:17頁 ・産業に限らず、NPOなど地域における新たな取り組みの「担い手」となりうる人材の発掘、育成も進める。</p>
地域構造を念頭に置いた交通基盤整備	<p>医療機能の維持でのドクターヘリなど効果的な手法を検討すべき</p>	<p>資料2-1及び2-2:13頁 ・地域医療を考える場合には、医療機能の集積、充実といった側面のほか、分散する居住地を念頭に置いた通院やドクターヘリなどによる救急搬送等の所要時間の短縮を図る。</p>
企業や民間など協働体制の推進	<p>個人所得の面からも産業集積や新たな産業育成が必要</p>	<p>資料2-1及び2-2:17頁 ・高付加価値化やブランド化を推進するためには、各種技術やノウハウなども積極的に地域に蓄積・活用していく必要があることから、そのための環境整備や実際にビジネスで活かす「仕組み」を構築するほか、大学など研究機能の活用を図る。</p>
域内循環型経済の促進	<p>地域全体でHACCPに取り組むなど、良質な食料、環境、観光の連携が重要</p>	<p>資料2-1及び2-2:17頁 ・域内での生産、流通、消費は、地域経済に対する貢献が極めて大きいことから、「地域ブランド」の定着による地元産品の活用、消費を拡大し、域内循環の活性化を図る。</p>
情報システムの確保によるコビキタスの実現	<p>ITネットワークを拡充・確保すべき 分散型社会に対応した情報インフラの整備も必要 ITを活用した沿革教育なども検討すべき</p>	<p>資料2-1及び2-2:12頁(17頁より移動) ・域内循環などを促進させる先進的な取り組みや、各地域の持つ強みを連携した新たな産業・ビジネスの創造を推進することに加え、情報化における地域格差解消のためのブロードバンド化やコビキタスなど情報基盤の確保・充実を図る。 資料2-1及び2-2:17頁 ・将来的な地域構造の変化なども見据え、ITを活用した遠隔医療や教育などの可能性を検討し、必要となる基盤整備を図る。</p>
既存社会資本の効率的な維持・管理と有効活用の推進	<p>釧路港の利活用の促進など広域物流を支える面から道路整備が必要</p>	<p>資料2-1及び2-2:17頁 ・「集中と選択」の視点から、新たな整備が必要な社会資本と既存の社会資本を効果的に連携させ、既存の社会資本の効率的な維持・管理や社会情勢の変化などに対応した弾力的な利活用など社会資本の利用最適化と有効活用を図る。</p>
その他	<p>移住者の確保は、人口減を補う意味でも重要 移住者の視点に立った交通など各種基盤の整備も重要</p>	<p>資料2-1及び2-2:12頁(基本的な考え方) 人口減少下においては、地域の全ての生活圏や各種機能を維持、拡大していくことは極めて困難であり、非効率である。 こうした視点に立った上で、「継続的に住みたい」と思えるような地域、より多くの移住者を受け入れられるような地域になるためには、持続可能な社会・地域の基礎・基盤となる人的資源と、医療・福祉など各種の専門的なサービスを提供しうる人材・機能を維持、確保するため、食産業や観光産業の振興などにより雇用場を確保するとともに、豊かな自然環境を享受でき安心して暮らせる住環境と必要な利便性を確保する。</p>